

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570103087		
法人名	有限会社旭ケアサービス		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	宮崎市橘通東1丁目5番2号 (電話) 0985-25-6555		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月30日

## 【情報提供票より】 (平成21年8月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤13人, 非常勤6人, 常勤換算7.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	2~3	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	210 円	昼食 367 円
	夕食	368 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年8月25日現在)

利用者人数	16名	男性 6名	女性 10名
要介護1	7	要介護2	4
要介護3	1	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山胃腸科クリニック、若草病院、迫田病院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市役所から東に道を挟んだ場所に位置し、周りは橘公園を中心に色とりどりの草花に囲まれている。ホームは4階建ての旅館を改装したもので1階は事務所兼職員の休憩場所で利用者の喫煙場所も設置されている。2、3階が各ユニットで4階は家族が宿泊できるスペースも確保してある。また、各ユニットは見晴らしが良く恒例の花火大会も窓越しに楽しめる。ホームでの生活は、4つの運営理念を基に、家庭的な雰囲気の中で、そこに住む人々とともに安全に、安心して生活できるよう職員と利用者が和やかな雰囲気で過ごしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については、各項目ごとに改善計画を立て取り組んでいる。重度化や終末期に向けた取り組みについては、今後検討する予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットごとに管理者を中心に、職員それぞれが自己評価の意義を把握し評価をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所の利用状況や活動内容の報告を行うとともに、外部評価の結果や運営上の問題点などを報告し、参加メンバーから意見を受け双方向的な会議となるよう配慮している。また、出された意見や要望はサービスの質の向上に生かせるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	便りを利用したり、家族の来訪時や家族会において家族から意見や要望などを気軽に言ってもらえるように働きかけている。出された意見や要望は、サービスの質の向上に生かしていけるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地域の祭りや宮崎レミニ会主催の行事にも参加し、代表者自身も地区の消防団に所属して積極的に地域との交流を図っている。また、中学生の職場体験やボランティアの受け入れ等も行なっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を十分理解し、職員から理念について意見集約し、事業所独自の4つの運営理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに毎日唱和し、職員全員が理念を共有し、日々のサービスに生かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の祭りや宮崎レミニ会主催の行事にも積極的に参加し交流している。また、中学生の職場体験やボランティア受け入れ等も行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員それぞれが自己評価を行い、各ユニットの管理者を中心にまとめている。評価をすることで気づいた問題点について一人ひとりが考え、定例会で話しあい、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の利用状況や活動内容の報告を行うとともに、参加メンバーから意見を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。また、出された意見や要望はサービスの質の向上に生かせるよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近いこともあり、懸案事項や問題がある時はそのつど足を運び相談している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行の便り「太陽便り」に利用者の写真を入れ、近況やホームでの生活状況を報告をしている。また、健康状態や金銭の管理状況なども随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会を開催している。家族の訪問時には意見や要望などを気軽に言ってもらえるように働きかけている。また、出された意見や要望はサービスの質の向上に生かしていけるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、説明や紹介を行い利用者のダメージを防ぐように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や自主研修などに参加し、復命するとともに研修内容を共有化し、職員個々がスキルアップに取り組んでいる。また、新規採用職員においても計画的に働きながらトレーニングできるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会参加や、他ホームと情報交換等で交流を図り、そのことを通じサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が会いに行ったり、利用者、家族に来てもらったり徐々になじめるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が送ってきた人生の中で得た知識等を、日々の暮らしの中で一緒に過ごしながらか教えてもらったり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、少しずつ希望を話してもらえるよう工夫している。また、意思疎通が難しい方に対しても生活歴などを考慮して支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを活用し、本人や家族の思いや意向を把握し、ケアのあり方について全職員で話し合い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回、定期的な見直しが行われている。また、状況に変化が生じた場合はそのつど話し合い、計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院への付き添いや買物、散歩などの支援は柔軟に対応し、個々の要求に対応できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医が選択できる。また、協力医療機関から定期的に往診もしてもらっている。利用者の状態に変化があった場合は、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を検討中である。	○	早い時期に重度化や終末期に向けた方針を策定するとともに、職員全員が方針について共有し、早い段階から本人、家族、関連スタッフによる話し合いの場が持てるよう取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応は、プライバシーを損ねないよう十分配慮されており、個人情報についてもきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を強制することなく、本人の希望を優先し、寄り添う支援がなされている。趣味のある方は自由に活動することができ、利用者のペースで時間が流れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、夕食は利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しみながら一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後からの入浴になっているが、利用者の希望やタイミングに合わせて柔軟に支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を生かしながら、洗濯物たたみや食後の後片づけ、掃除、趣味など、その人に合った役割や気晴らしとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺には公園があり、気軽に散歩に行ける環境でもあり、その人の希望に沿って外出ができるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室には鍵をかけずに、職員の見配りや気配りによる支援を行っている。また、外出傾向のある方は、本人の生活パターンを把握した対応がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの整備や、定期的に夜間想定も含めた防災避難訓練が行われている。また、代表者自身も地区の消防団に所属しており地域の協力も得やすい。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時に食事量をチェックし、職員は情報を共有し対応している。水分摂取の少ない方に対しては1日の摂取量をこまめにチェックし支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや畳スペースがあり、ゆったりと過ごせる共用空間が確保されている。また、不快な臭いや音、光もなく適切に管理され安心して生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、装飾など使い慣れたものや写真が持ち込まれており、その人らしい環境づくりがなされている。		

※  は、重点項目。